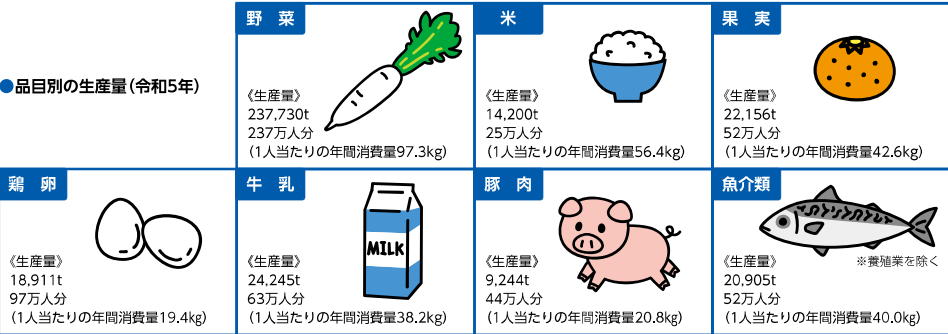


新鮮で安全な食料を供給する農水産業

農水産業は、産地からさまざまな経路で食卓に新鮮で安全な食料を提供し、わたしたちの生活になくてはならない役割を果たしています。

神奈川県は、920万人を超える県民を抱える大消費地であることや、多彩な人材や企業等が身近にいるといった都市農業のメリットを生かして、県民に県産農水産物を安定的に供給し、持続的に発展する農水産業を推進しています。



(注1) 1人当たりの年間消費量は、「食料需給表」「牛乳牛製品統計」による。
(注2) 米は陸稲を含む。野菜は農林水産省統計部調査対象41品目(ただし、ばれいしょは除く)の計。果物は農林水産省統計部調査対象14品目の計。

●全国シェアの高い主要農水産物(令和5年)

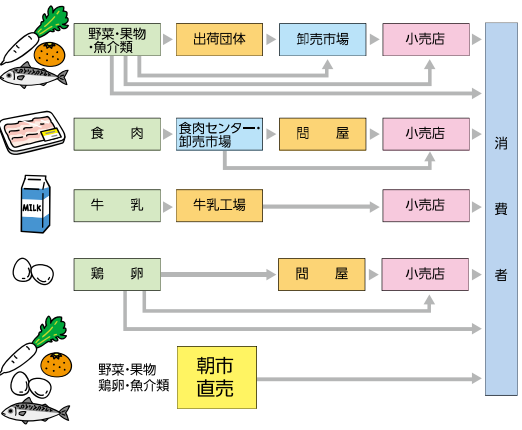
	品 目	生産量			本県 順位	全国上位5都道府県
		全国	神奈川県	本県シェア		
野 菜	だ い こ ん	1,141,000t	73,000t	6.4%	5	千葉、北海道、青森、鹿児島、 神奈川県
	キ ャ ベ ツ	1,434,000t	61,600t	4.3%	7	群馬、愛知、千葉、茨城、鹿児島
	ほうれんそう	206,800t	7,620t	3.7%	8	群馬、埼玉、千葉、茨城、宮崎
	こ ま つ な	120,900t	6,700t	5.5%	5	茨城、埼玉、福岡、東京、 神奈川県
	か ぼ ち ゃ	159,900t	3,460t	2.2%	7	北海道、鹿児島、長野、茨城、長崎
	さ と い も	126,700t	4,800t	3.8%	8	埼玉、宮崎、千葉、愛媛、栃木
	え だ ま め	62,000t	2,830t	4.6%	8	北海道、群馬、千葉、埼玉、山形
果 実	み か ん	681,600t	13,100t	1.9%	11	和歌山、愛媛、静岡、熊本、長崎
	キウイフルーツ	22,100t	1,190t	5.4%	4	愛媛、福岡、和歌山、 神奈川県 、群馬
花 き	ば ら	183,600千本	9,110千本	5.0%	6	愛知、静岡、山形、福岡、群馬
	パ ン ジ ー	98,600千鉢	5,680千鉢	5.8%	3	埼玉、愛知、 神奈川県 、奈良、福岡
水産物	そうだがつお類	14,181t	735t	5.2%	4	高知、静岡、岩手、 神奈川県 、長崎
	こ の し ろ	4,099t	348t	8.5%	3	千葉、熊本、 神奈川県 、大阪、佐賀
	た ち う お	5,420t	318t	5.9%	4	千葉、長崎、熊本、 神奈川県 、和歌山
	め か じ き	5,035t	231t	4.6%	7	宮城、岩手、静岡、高知、北海道

「農林水産統計年報」

■新鮮な食材がわたしたちの食卓に届けられるまで

生鮮食品は、市場流通をはじめ直売、契約販売など多彩な流通経路により、生産者から消費者へ届けられています。生産者と消費者の結びつきを深める直売については、共同直売所や朝市、観光農園などが設けられており、生産者と県民との新たな交流の場にもなっています。

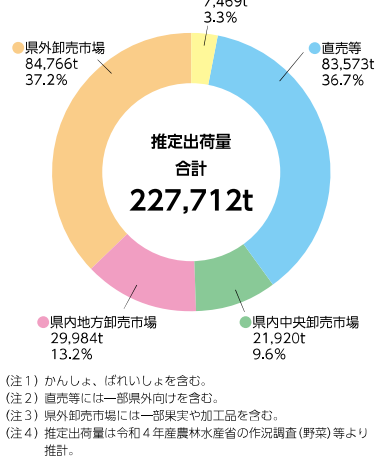
●流通のしくみ



■青果物の流通・販売

野菜は、約60%（農家の庭先販売等の直売を含む。）が県内向けに出荷されています。果物は、なし、ぶどう等、その大半が直売や宅配で販売されています。

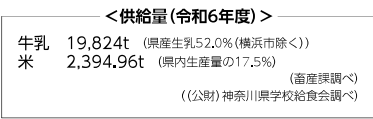
●県内産野菜の流通実態(令和4年)



■学校給食への県内農産物の供給

県内の小中学校で飲まれている牛乳は、県内産の生乳が優先して使われています。

多くの市町村の米飯学校給食では、県内産米が使われています。また、「かながわ学校給食地場産物利用促進運動」の実施などにより、学校給食における県内産の農産物の利用促進に取り組んでいます。



本県の食料自給率について

本県の農業は、地形や気候などの自然条件や身近に大消費地を持つという特徴を生かして、県民(国民)の健康で豊かな生活に必要な不可欠な食料を生産しています。農林水産省が実施した試算では、令和3年におけるカロリーベースの食料自給率は、国が38%、本県は2%(全国45位)となっています。

食料自給率が低い原因として、次の理由が挙げられますが、いずれも本県農業の特徴と重なります。

① 耕地面積が少なく(全国45位)、人口が多い(全国2位)。

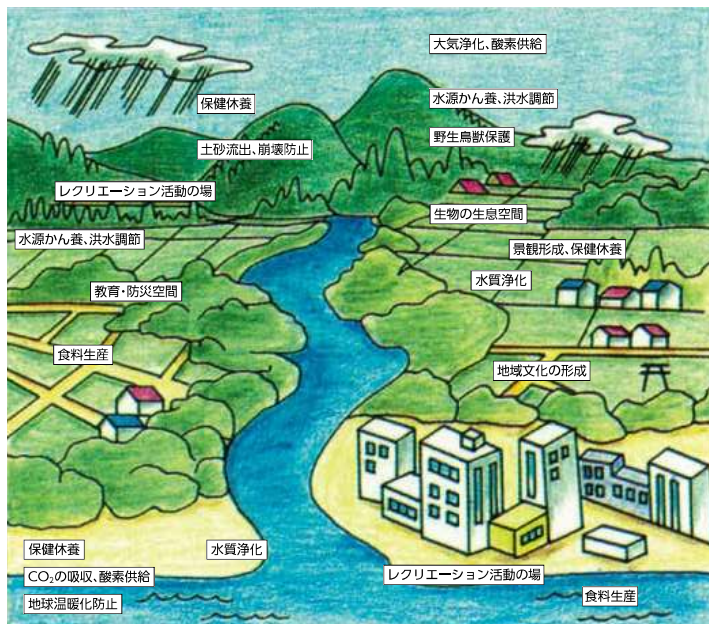
② 畑が主体で水田が少ないため米の比率が低く、野菜や果実など、カロリーの低い農産物の生産が中心。

県土や自然環境を守る農林水産業

農林水産業は、適切な生産活動を通じて県土や自然環境を守る働きをしています。

広大な森林や水田は、水を豊かにたくわえるダムとして洪水や土砂崩れを防ぐと同時に、水や大気をきれいにしています。

農林水産業の果たすさまざまな役割



<農地>

水田や畑は、地下水のかん養や洪水を防止する役割を持つとともに、災害時の避難場所になるなど、貴重な防災空間の役割も果たしています。

農業・農村は、良好な景観の形成、防災、県土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、文化の伝承、情操のかん養など様々な働きを持っており、このような働きを「農業・農村の有する多面的機能」といいます。

<海・川>

海や川は、多種多様な水産物の生産はもちろん、マリレジャーや釣りなどのレクリエーション活動を楽しむことができ県民に憩いの場を提供しています。また、海藻や二枚貝類は、二酸化炭素の吸収や水質浄化の働きを持っていることから、私たちに恵みを与えてくれるとともに海の環境を改善させる役割も果たしています。

<森林>

森林は、木材の生産はもちろん、水源のかん養、洪水や土砂崩れ等の災害防止、生活環境の保全、癒しや安らぎをもたらし場の提供など、わたしたちの生活にとって大変重要な役割を果たしています。

また、地球温暖化に対処するため、地球環境の保全や資源の循環利用に関する取組が世界的に強化されつつあり、その中でCO₂を吸収する森林等の働きが改めて注目されています。



整備された農地(水田) (南足柄市内山地区)



CO₂の吸収を行う海中林(三浦市南下浦町)



重要な働きをもつ水源林
(相模原市緑区澤井)



あまもに宿る放流稚がざみ
(三浦郡葉山町)



水源環境保全・再生イメージキャラクター
「かながわ しずくちゃん」

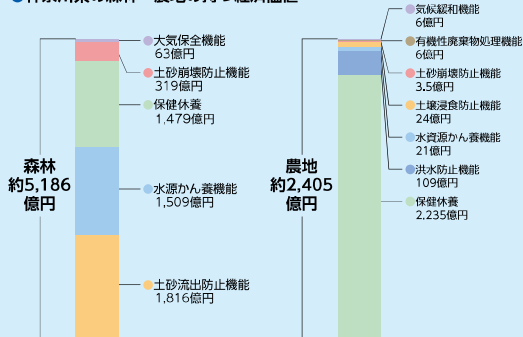
(参考) 公益的機能の経済評価の試算

森林や農地は、木材や農産物を育てるだけでなく、土砂の流出や洪水を防止する等の公益的機能(広く社会全体に有益な影響を与える機能)を有しています。本県の森林と農地が持つ公益的機能の1年間当たりの経済価値について、代替法^{*}を用いて試算しました。

公益的機能には、試算された機能以外にも防風機能や水質浄化機能など様々な機能があり、それらが相まって豊かな県民生活に寄与しています。

^{*}代替法 同じ機能を発揮しているほかの市場財で代替した場合に必要とされる費用によって評価する手法。

●神奈川県森林・農地の持つ経済価値



グリーンカーボンとブルーカーボン

森林や都市緑地の樹木、農地などの草本類、海洋中の海藻類等は、光合成をする際に大気中のCO₂を吸収し、CO₂に含まれる炭素を有機物として固定します。

陸上の植物が吸収、固定する炭素を「グリーンカーボン」と言います。森林や草原など陸地全体に分布している植物を「グリーンカーボン生態系」と呼び、これら

の生態系は、大気中のCO₂を減らすことで地球温暖化を防ぐという重要な役割を果たしています。

また、若い木ほど盛んにCO₂を吸収すると言われているため、伐採と造林を行うことで森林を若返らせる必要があります。伐採された木はCO₂を蓄え続けるため、積極的に木材を利用することが脱炭素社会実現への貢献につながります。

一方、海の生態系に取り込まれる炭素のことを「ブルーカーボン」

と言い、カジメやアマモといった海藻などは光合成によりCO₂を吸収する重要な働きを持っています。

しかし、近年、全国で魚やうなぎによる被害などにより海藻の群落である「藻場(もば)」が消失する磯焼けが拡大し、海藻を餌にしているあわびなどの漁獲量が減少していることから、漁業者などによる藻場再生の取組が進められており、脱炭素社会の実現に向けた取組としても注目されています。

うるおいや、やすらぎをもたらし、豊かな恵みを守る農林水産業

美しく広大な田園や森林、海辺の風景は、わたしたちの心にやすらぎを与えてくれます。

農林水産業は、地域の特長を生かした歴史のある営みを通して、これらの風景や豊かな地域文化を形成し維持しています。

農地や水路は、メダカやドジョウなど、水生生物の貴重な生息空間としての役割も果たしています。

■里地里山保全活動

里地里山の多面的機能の発揮と次世代への継承を図るため「神奈川県里地里山の保全、再生及び活用の促進に関する条例」に基づき行われる保全等の活動に対して支援するとともに、里地里山の大切さについて県民の理解を進めるための広報活動などを実施しています。



かながわの
里地里山
Instagram



里地里山体験イベント(平塚市)

■農業農村理解促進活動

将来を担う子どもたちを始め、県民の皆様が生産の基盤となる農地、農業用施設等の有する生産機能や多面的機能の理解を促進し、農業の大切さを伝え、豊かな心を育んでいただく取組として、保育園での農育活動や小学校の総合学習を利用した出前講座等を実施しています。



保育園での農育活動(茅ヶ崎市)

■多面的機能支援事業

農業者の減少や高齢化に伴う集落機能の低下により、維持管理が困難となっている農道や農業用水路等を保全する地域ぐるみの活動や景観植栽及び都市住民との交流などの農村環境を保全する活動を支援し、食料の安定供給と農業の有する多面的機能の発揮を図っています。



地域ぐるみで実施する水路の一斉清掃(壺川町)

■農林水産業とのふれあい

県内各地には農林水産業とふれあうことができる施設が設けられています。平塚市にある県立花と緑のふれあいセンター「花菜ガーデン」では、様々な展示や体験などを通じて園芸や農業を楽しみながら学ぶことができます。(ふれあい施設については43～44ページ参照)



花菜ガーデンでの農業体験(平塚市)

■市民農園

身近なところで自然の味覚と収穫の喜びを味わうことのできる観光農園とともに、農作業を通して農業に親しむことのできる市民農園が県内各地で盛んに営まれており、市民農園法等に基づく農園数は令和6年3月時点で720箇所あり、全国1位です。



市民農園(相模原市)

■かながわホームファーマー

農業を学びたいという意欲のある県民の皆様と、耕作されなくなった農地を結びつける制度として、県が農地を借り受けて農園を開設する「かながわホームファーマー事業」を実施しています。令和6年度は、5市町で2.9haの農園を77人が耕作しました。



かながわホームファーマー体験研修(伊勢原市)

■森林とのふれあい

豊かな森林の中で、森林の役割や林業への理解を深める場として、県内各地に県民の森や県立21世紀の森などのふれあい施設を設けています。

県立21世紀の森では、四季折々の植物や動物が観察でき、森林・林業について学べる展示室、木工体験のほか、自然観察会など様々なイベントも開催しています。



県立21世紀の森での自然観察会(南足柄市)

■海とのふれあい

本県には、風光明媚な砂浜や磯が広がり、海水浴、魚釣り、サーフィン、ダイビングなどの海洋レジャーが盛んで、地びき網などの漁業体験も行われています。また、漁港などでは、獲れたての水産物を漁業者が直接販売するイベントなどが開催され、都市と漁村の交流が図られています。



地びき網(三浦市)